

第3回かわさきコンパクト委員会 議事録

日 時：2015年3月19日（木）14時00分～15時15分

場 所：川崎市役所第3庁舎18階 第1会議室

出席者：〔委員〕小倉、庄司、末吉、鈴木、瀧田

〔川崎市〕地球環境推進室 中村、井田、石井、前田

〔事務局〕一般社団法人CAT 犬塚、小熊、山崎

1 議題

(1) かわさきコンパクトの今期事業について

資料1の「2014年度かわさきコンパクト事業推進事業報告（案）」に沿って、CATより今期事業について報告されたあと、意見交換を行った。

- ▶ 冊子はとてもよかった。リストだけでは各企業や団体が何をしているかわからないが、冊子では活動が見渡せる内容となり、外向けに説明するにも使える。毎年更新が望ましいが、隔年でもよいので発行して欲しい。
- ▶ 少しずつ良くなってきている。新年度に向けて期待をしている。
- ▶ 情報が有り余る時代なので、情報発信は、多少過剰なくらいがよい。あらゆる機会手段を使って伝えることを継続することは必要なことだ。

(2) 国連グローバルコンパクト・かわさきコンパクト庁内関係部署会合について

資料2に沿って、市職員から、庁内のなかでの取り組みについて平成26年度の報告と平成27年度の計画が提案された。

（市の意見）庁内関係部署と連携し、庁内PRを図った結果、新たな計画の更新に「グローバルコンパクトを支持している」、「かわさきコンパクトに取り組んでいる」といった文言が入るなど庁内で認識は高まり、施策間での連携を図ってきた成果が出てきている。一方理念が浸透したかの成果としてわかりやすいのが会員数だが、なかなか増加に至っていない状況である。

その理由として、審査という言葉がもつハードルの高さ、事務手続きの煩雑さなどがあるかと思う。例えば、審査は要件確認にする、冊子は毎年更新し活動報告の内容を冊子の中にスライドする、など、委員の皆さまに意見を伺いつつ来年度一年間かけて検討して具体的な平成28年度へのアクションにつなげていきたい。

上記報告後、議題3の意見交換に移行した。

(3) 今後に向けての意見交換について

➤ 再度、設計を見直すのは大事である。かわさきコンパクトは、川崎市全体の政策として取り組む必要があるのではないかと思う。来年度の COP21 で世界の気候変動・温暖化対策の大枠が合意される予定でこれが合意されると世界の流れが変わり、相当の勢いで温暖化対策に取り組むことになる。現在、レジリエントな（回復力のある、しなやかで強靱な、の意味転じて）自然災害に強いまちづくりが注目されているが、川崎でもレジリエントなまちづくりは柱になるはずだ。これは、市民コンパクトの宣言1「かわさきの町と人と自然を大切にします」そのものであり、直結している。地方再生が叫ばれるなかで様々な分野でモデル都市が誕生しているが、そこに川崎の名前を出していく、都市間競争を越えていくためには何を売りにしていくのか。この売りに「かわさきコンパクト」は有効と考える。かわさきコンパクトの理念を基礎にして様々な政策を作っていくことで、川崎市の様々な取り組みの統一化を図り共有認識を深めることができる。

➤ （市）自然災害に強いまちづくり、たとえば、地球温暖化対策として、CO₂削減といった緩和策を進めるのと同時に、水害対策、熱中症対策といった気候変動に対する適応策も洗い出して関連政策に反映させるべく進めている。一方国土強靱化政策を定めていて、これは主にハード面からの災害に強いまちづくり政策であり、こちらも併せてコンパクトの理念とずれないように情報提供していきたい。

➤ 子どもたちへの教育として、川崎市がコンパクトに取り組んでいることを知るカリキュラムはあるのか。小中学校で市民コンパクトの考え方を伝える学習機会があるとよい。

➤ （市）総合的な学習の時間などの内容は、各学校に委ねられている。環境教育から入る、と実施しやすいと推察するが、グローバルコンパクトの観点で考えると分野は幅広く、環境だけでなく人権や国際といった間口があり、それらが最終的にコンパクトにつながる、という流れをつくる仕掛けがあるといいと考えている。

➤ 若者に知って欲しいのは、世の中や社会を動かすには、このようなやり方がある、ということだ。世界で起こっている課題は遠い世界の話ではなく、身近な暮らしから変えていくことで社会を変えていける、という視点を持って欲しい。この紹介冊子のタイトルにも「かわさきコンパクト」という日本語の標題とコンパクトの「未来への約束」といった文言が入るといい。

➤ 以前より宣言 2 の地球温暖化対策については、環境を守ることが命を守ること、と認識していたが、宣言 1 の町と人と自然を大切にする、ということも同様に地球温暖化の適応策に直結しているという視点は新鮮だった。そういうことも皆さんに知ってもらえるといい。

➤ アメリカでもハリケーン災害対策から、医療施設や介護施設などに自己発電を導入しライフラインをレジリエントなものにするといったことが行われている。まちづくりの視点が変わってきている。

➤ (市) 市では、適応策の洗い出しを進める一方、水害対策では湧水基地など各所に設け土砂崩れなどのリスクが低いと言われていて安心安全なまちづくりは進んでいる。総合計画の策定段階であるが、宣言に照らし合せて市がどのような施策をしているのか情報提供をしていきたい。市民コンパクトやビジネスコンパクトが、自分の町で何を行っているのか示せば、市民に分かりやすくなると思う。

➤ グローバルコンパクトの国際会議や、グローバルネットワークジャパンなどの会議の中で、川崎市が発信するチャンスがあると一般にアピールする機会になるかと思う。川崎の低 CO₂ 対策は世界に売り込めるブランドなので、コンパクトと併せて川崎市全体でアピールしていく仕掛けがあるといい。

➤ (市) 市民コンパクト、ビジネスコンパクトもありきが前提で進めてきたが見直す時期に来ている。これからの川崎市へ未来との約束、とあるが、何を約束すべきか、原則など見直し、そこに市長の思いを入れていけるような仕掛けができるように市としても頑張っていきたい。設計の再検討は、市民参画を促す参加の手法という観点で簡素化していくことを再確認させて欲しい。

➤ かわさきコンパクトとグローバルコンパクトがあることが前提にしても、制度設計は見直しの時期に来ている。今までの手法では効果的とは言い難く広がりを作ることが難しかった。地域の中小企業を巻き込むことがコンパクトを元気にしていく。人権や学びなど市民が感じる間口の広さを打ち出していかないとこれ以上広まらない。大手ではない企業、環境分野でない市民団体、街のお店の方など自然にコンパクトを具現化しているひとは大勢いる。そういうかたを賛同者として増やすことでコンパクトの理念を広げていきたいし、広げられると思う。審査ではなく登録にして、大勢が関わることでなお一層よくなっていくだろう。

➤ 「私のコンパクト～未来への約束～」と銘打って、それぞれのコンパクト宣言を

集めるなど、高校生など年齢関係なくどんどん賛同者を増やしていくような試みがあると面白い。

➤ こういった理念を広めるには、伝道師が必要である。庁内の幹部級の研修で末吉委員が話をするといったのも一つの方法かと思う。理解する人を増やせる手法を考えたい。

➤ 市職員に対して、CSR の研修としたときに、誰のためにサービスをしているのか？カスタマーズサティスファクションを考えたことがあるのか？と問うたことがある。市役所も社会的責任はある。企業や市民は変わり始めている。基本は安心安全なまちづくりであるが、変わり始める企業や市民へ適応していかないと社会とずれてしまう。

以上の意見交換を踏まえて来年度以降の計画を進めて欲しい旨が委員長より提案され、会場の一致を得た。

最後に事務局から次年度の委員会については開催する予定である旨の報告があった。

2 閉会